

自衛隊のメディア露出が相変わらず続いています。この問題を考える「やばくね? テレビアニメ、映画への自衛隊出撃!」と題した学習会が都内で開かれました。主催は練馬・文化の会。アニメ監督の有原誠治さんと元日本テレビディレクターでメディア総合研究所研究員の加藤久晴さんが報告しました。

自衛隊のメディア露出

有原、加藤氏 学習会で批判

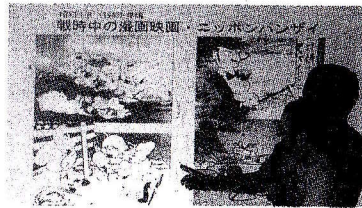


有原誠治さん

有原さんは、防衛省と海上自衛隊が製作に協力したアニメ映画「名探偵コナン 絶海の探偵」(4月20日公開)を例に挙げ、「こうした作品の共通点は、

『苦勞をい」とわず献身的に働く自衛隊の強調と、アジアの隣国を、①防衛省の紹介となる②防衛思想の普及高揚となるという2点の基本条件を満たせば、無償で人とモノを提供することになっています。

有原さんは「日常的に自衛隊への好印象をつくり上げるのが彼らの広報戦略です。二度と戦争をしないと誓った憲法のもとで、国家予算を使って『武力でしか問題を解決できない』と子どもたちに教えることは憲法違反です」と批判しました。



戦時中の映画を解説する有原さん

有原さんは「日常的に自衛隊への好印象をつくり上げるのが彼らの広報戦略です。二度と戦争をしないと誓った憲法のもとで、国家予算を使って『武力でしか問題を解決できない』と子どもたちに教えることは憲法違反です」と批判しました。

アニメ▶ 無償で人とモノ出す広報戦略

◀テレビ 憲法からの視点なく持ち上げ

加藤さんは、TBS

1960年代に放送された自衛隊宣伝番組
(加藤さんの資料から抜粋)
「陸海空を行く」(テレビ朝日系、62年)
「自衛隊記念日特別番組」(テレビ朝日系、64年)
「自衛隊パレード」(テレビ朝日系、65年)
「日本の防衛問題」(フジテレビ系、66年)

系ドラマ「空飛ぶ広報室」や、日本系バラエティー「赤丸スクープ甲子園」など、今年に入ってから自衛隊がテレビに取り上げられる回数が増えていると指摘。背景には東日本大震災で自衛隊の救助活動が注目を集めたことと、第2期安倍政権が憲法改定に前のめりになっていることがあるとして「今がチャンスだとテレビ局が思っていることの表れではないか」と述べました。

1960年代に

加藤さんは60年代に自衛隊番組が集中したと紹介表を参照。その上で、自衛隊と軍国主義を賛美したドラマ「列外一名」(日本テレビ系、64年)が市民の批判の高まりで放送中止になったことなどをあげ、「反対運動も盛んになっています。防衛省広

レビ局は60

加藤さんは「これか



加藤久晴さん

年代以降、局のイメージダウンを恐れ、戦闘シーンの撮す」と語りました。

テレビ・ラジオ

影で自衛隊の協力を得ることなどはあっても、真正面から自衛隊を取り上げることにはあまりありませんでした」と振り返りました。

「列外一名」とは逆に、政財界からの圧力で放送中止となったのが、62年のドラマ「ひとりっ子」(RKB毎日)です。このドラマは「自衛隊と憲法との間に矛盾はないか?」と高校生が自衛官に質問するシーンなど、自衛隊は憲法と相いれない存在であることを打ち出していました。加藤さんは、「いまテレビが自衛隊を取り上げる際、自衛隊は憲法と相いれるのか」という視点が一切といっていいほどありません」と危言をします。

加藤さんは「これも自衛隊を論議するのではなく、持ち上げ、褒めそやす番組が増えてくると思います。私たちは『自衛隊を正当化する番組はおかしい』という原点に立って声をあげなければならぬと思います」と語りました。